

隨泉寺寺報

平成27年（2015年） 4月号 第535号

TEL.082-892-0217 <http://www.zuisenji.com>

浄土真宗本願寺派 高峯山隨泉寺

春季永代経法要

講師 龍仙寺住職 武田昭英師

講題 『本願力にあいぬれば』

■永代経について

「永代経」とは永代（末永く）に経を読まれるという事です。故人をしのび、「み教えが永代に伝わるように」という願いを持って勤められる法要です。

同時に「子や孫にわたってみ教えを聞くこと」を願って勤める法要です。道綽禪師は、《前（さき）に生れんものは後（のち）を導き、後に生れんひとは前を訪（とぶら）へ》と言われました。親鸞聖人も、「前（まえ）に生れるものは後（あと）のものを導き、後に生れるものは前のものあとを尋ね、果てしなくつらなって途切れることのないように。それは、数限りない迷いの人々が残らず救われるためである」と言われています。先代から、私、私から後の世代へと伝わって、末永く経が読まれることで、後の代へも仏縁が続くものです。末永く永代に子どもや孫の代やもっと後の代にまで、仏法が届けばと思います。

4月の法座予定

- 4月 2日……………本部役員会 花見
- 4月 12日……………掃除 瀬野川団地・桑原
- 4月 15日 昼席午前10時より……………春季永代経法要
- 4月 15日 朝席終了次第……………婦人部総会 おとき
- 4月 15日 昼席午後1時より……………春季永代経法要
- 4月 15日 昼席終了次第……………門信徒会役員総会
- 5月 2日 午後5時より……………門信徒会本部役員会

☆ インド紀行(9) 若院 [4月]

3月4日、この日はベナレスへと向かいました。ベナレスは聖なる河であるガンジス河が流れるヒンズー教の聖地です。この町から2時間ほどかけてこの旅最後の仏蹟地であるサールナートへ（初転法輪）と向かいました。サールナートは



お釈迦様が最初に法を説かれた場所でもあります。お釈迦様の仏蹟参拝には必ず訪れる場所なのですが、なぜそこが大事なのか10年前にインドへ訪れた時にはよくわからなかったのです。

しかし考えてみると最も大事な場所であることに気付きました。お釈迦様が成道（悟りを開かれた）された以前にも、成道された修行者はいたそうです。しかしその悟りの内容は人に伝えられることはなく、伝えても成道に至る修行者がいなかったそうです。お釈迦様も悟りを開かれてから、それをどのように人に伝えていこうか悩まれますが、一度伝えることを諦められるのです。しかしこの時に梵天勸請（梵天という古代インドのバラモン教の神によって法を説く事を勧められた）により、かつて共に修行していた5人の比丘に出会って法を説かれた場所がこの地であったのです。この時、お釈迦様が法を説く事を諦めていれば今の私に仏教の教えは伝わることは無かったのです。ですので、この場所こそが仏教の起源の場所であるため、最も大事な仏蹟ということだったので。

そのような感情に浸りながら、お釈迦様へ感謝の思いを込めてサールナートで参拝させていただきました。ちなみに三蔵法師のモデルとなった玄奘三蔵も天竺（インド）へと来た時には立ち寄られ、その時には1,500人程の修行僧がいたことに驚かれた、と記録に残っているそうです。



☆ 御礼

| | | | | | |
|-------|---|------|--------|--------|-----------|
| 永代経懇志 | 金 | 拾万円 | 七竹にしき殿 | 故七竹則男様 | 特別永代経志として |
| 永代経懇志 | 金 | 五万円 | 西川 邦子殿 | 故西川 元様 | 特別永代経志として |
| 永代経懇志 | 金 | 拾万円 | 古堀 恭子殿 | 故古堀岩男様 | 特別永代経志として |
| 永代経懇志 | 金 | 貳百万円 | 観心院釋正護 | 中本健一殿 | 遺言にて |

☆ 御礼

| | | | | | |
|-------|---|----|--------|--------|---------|
| 門信徒会へ | 金 | 一封 | 西川 邦子殿 | 故西川 元様 | 香典返しとして |
| 門信徒会へ | 金 | 一封 | 下垣チエコ殿 | 故下垣良一様 | 香典返しとして |

☆浄土真宗本願寺派前門主 大谷光真著 「「あけぼのすぎ」

—浄土真宗一口法話— 4月 (榎本栄一)

「遠くなった耳が世音の中に仏さまの声をふと聞かせていただく」

本願寺では、四月にはいり、入学、就職といった新しい生活を祝うかのように、桜の花が、美しく咲いてきました。しかし、希望どおりの生活が始まった人ばかりではないと思います。人生、思い通りにならないことばかり、と感じる方もいらっしゃるでしょう。でも、反対に、何でも思うとおりになるとしたら、どうでしょうか。ブッシュ大統領やフセイン大統領のことをご想像ください。



この二人が思いどおりになる世の中はどんなものでしょうか。人間は皆、煩惱を抱えています。

だから、私たち人間の「勝った負けた、損した得した」という声の中に「南無阿弥陀佛」が聞こえてくる時、一番大事なものは、すじの通った真実、まことであると気付かされます。南無阿弥陀佛とお念仏申しつつ、いのちの尊さをかみしめ、共に歩ませていただきましょう。

4月 カレンダー法語

東井 義雄師

見えないところで ささえてくださる願いがある

こぶし・木蓮・椿・梨・桜・しゃくやく・すみれ……花、花、花の四月です。何百年の間、風雪に耐えて生きぬいてきた桜の老木が、さわれば色でもつきそうな若緑の芽をふいてくれるのもこの四月。虫・魚・鳥……そして人間。入園・入学・進学・新就職の子どもや若者のいのちが最高に輝くのもこの四月です。まさに、いのちらんまんの月といえましょう。

でも、私たちは、このらんまんさにだけ、目を奪われていていいのでしょうか。ある五歳児のつぶやきを、保母先生が感動をもって記録してくださったものを思い出します。

ぼくの舌動け
というときは
もう動いた後や
ぼくより先に
ぼくの舌動かすのは何や？



というのです。

地上に見えているところだけが、樹であるのではないのです。見えないところで、見えるところをささえ、あらしめているはたらきや願いがあり、その願いの中に、私も、いまここに、生かされてあるのです。

そして、この大いなる願いに、私たちを目覚めしめるために、この世にお出ましになったお釈迦さまが、ご誕生くださったのも、この四月だということが、何ともありかたいではありませんか。

☆瀬野川仏教婦人連合会50周年記念講演会

3月12日海田のサンピア安芸で『瀬野川仏教婦人連合会50周年記念講演会』が御講師に相愛大学教授の《釋徹宗先生》を迎え、たくさんの方が参加していただき、盛会裏に終了いたしました。当日は370名を超える大勢の方がご来場いただき本当にうれしく思いました。

昭和三十五年に瀬野川仏教婦人連合会が発足して、平成二十七年で五十四年を迎えました。4年前から50周年ということで一連の記念行事を開催してきましたが、これで修了ということになりました。

昭和三十五年といえば、白黒テレビがようやく各家庭に普及しはじめた時代、戦後の大混乱からやっと脱却したかと思われる時代であり、新幹線もまだ無く、東京オリンピックや大阪万博も、開催されていませんでした。

そんな時代に、私たちのおばあさんやお母さんが、新しい時代に《如何に生きるか》《本当に大事なものは何か、》という根本命題を、心を合わせて協力し、人々の心に真の豊かさを伝えていこうと立ち上がった姿が本会の発足の趣旨だったのでしょう。

しかしながら昨今の社会には、《如何に生きるか》という仏教の根本命題が全く作用していないとしか思えない、悲しく痛ましい事件が、極めて日常的に発生しています。一方、“葬式仏教”なる言葉からさえも、社会は、距離をおきつつあるやに感じられます。それは〈葬式無用〉という風潮にも見えます。一体、何故なのか。それは、現在の我が国の仏教が、本当の意味で【日常の苦しみ、悲しみ】に応えていなかったということになります。《応病与薬》の働きをしていないからではないのでしょうか。

また、本来、仏徳讃歎と共に仏徳宣布であり、仏様と念仏者との「心」の表れである法要・儀式が空洞化しているからではないのでしょうか。

子や孫に 次の五十年、《如何に生きるか》《本当に大事なものは何か》の、仏教本来の課題を自ら問い直し、広く世に明示し、真の生き方、佛祖の願いを回復するために、私たちは更なる努力を惜しんではならないと思います。

